

## 未定稿：引用はお控えください

「グローバル・ソーシャルワークの展開：新自由主義的グローバリゼーションに抵抗する理論と実践—SWAN—Iを中心に」

○ 大谷大学 中野 加奈子 (7013)

○ 日本福祉大学 伊藤 文人 (3744)

反新自由主義/ソーシャルアクション/Swan-International/ショックドクトリン/  
ソーシャルワークの商品化

\* 本報告は、3-1～3-3 を主に伊藤が、3-4、4 を主に中野が執筆した。

### 1. 研究目的研究の視点および方法

現代のソーシャルワークの特質を評価する場合、我々はそれを新自由主義というイデオロギーとグローバリゼーションという権力との関係の中で追究する必要があると強く自覚している。今日、この権力の喧伝するアジェンダ（「世界の商品化」）によって国家の主権は空洞化している。戦後に築かれた「社会的コモンズ（≒福祉国家）」のリストラが進行しているのだ。この文脈の中で専門職ソーシャルワークは極めて厳しい実践（労働）を強いられている。とりわけ日本ではこの権力の呪縛から逃れがたい閉塞感に包まれているように見える。しかしながら、世界に眼を転じれば、こうしたアジェンダに堂々と異議を申し立てて屈服しない社会運動が興隆していることもまた事実である。

本報告は、その一環として、「世界の商品化」に抵抗する社会運動と連帯しながらソーシャルワークの刷新を図ろうとする理論と実践の内実の一端を、ソーシャルワーク・アクション・ネットワーク・インターナショナル（SWAN-I）を中心に素描し、その理論的実践的な蓄積と日本への示唆について考察を行う。

### 2. 倫理的配慮

本報告は、「日本社会福祉学会研究倫理規程」および「日本社会福祉学会研究倫理規程にもとづく研究ガイドライン」に基づき、先行研究論文、引用文献を明示するなど、倫理的配慮を行っている。

### 3. 研究結果

#### 3-1. 新自由主義的グローバリゼーションの展開

##### 3-1-1. 新自由主義的グローバリゼーションとは？

マルクス主義経済地理学者であるデビッド・ハーベイ（2005=2007:10）は、以下のよう  
に新自由主義を規定している。

「新自由主義はなによりも、強力な私的所有権、自由市場、自由貿易を特徴とする制度枠組みの範囲内で個々人の企業活動の自由とその能力を無制約に発揮させることによって人類の富と福利が最も増大する、と主張する政治経済的実践の理論である」

## 未定稿：引用はお控えください

この教義の思想的始祖は、F.A.ハイエクや M.フリードマンに帰せられることは周知のことだが（ジョージやワイルディング 1989 ch.2）、彼らの（政治）経済理論の最初の実験場にされたのはアメリカやイギリスではなく、「世界が変わった年 1973 年（9 月 11 日）と称された南米のチリであった（Ferguson, 2008=2012: 44; Cline2007=2011（上））。チリをはじめ南米諸国は、社会主義政権が国有化政策を採用していたので、（アメリカ）資本は蓄積の停滞に悩まされていた。これを一掃する手立てがニクソン政権のもとで CIA と、フリードマンのドクトリンを学習した経済学博士たち（「シカゴボーイズ」）によって構想され、実行されたのである。これがクラインのいう「ショック・ドクトリン（惨事便乗型資本主義）」である。端的にこれは、自然災害や戦争（クーデタを含む）という「ショック（危機）」に乗じて、当該対象国の政治経済的動脈を混乱・破壊し、その混乱に乗じて資本に有利な政治的決定を下すような統治機構を再編して、グローバル資本の蓄積にもっとも適的な環境を人為的に創造する方法である。もう少し分かりやすくいえば、大規模災害や戦争・内乱に乗じて（あるいは故意にそうした緊急事態を演出して）国民国家が維持していた資本に対する社会的規制を「民営化」と称して撤廃し、より資本に都合の良い市場を再構築しながら、それまで国家と国民（労働者）が蓄積し守ってきた社会的富みを篡奪するものである。「グローバリゼーション」という場合は、こうした新自由主義的イデオロギーを前提にした政治経済システムを世界的に普及させる、という意味合いが強く、事実このアメリカのモデルが各国に押し付けられているとみてよいだろう。その意味で、新自由主義的なグローバリゼーションという教義は、アメリカ型の新帝国主義による「略奪による蓄積」スキームであり（Harvey 2005=2007:70）、事実上「欧米を中心とする多国籍企業を擁する」「ブルジョア集団がついに名実ともに地球の主にな [る]」（ibid.:71）ことを目論んだ「世界を商品化」する戦略と戦術といえる<sup>1</sup>。つまるところ、これは福祉国家の普及によって脆弱化された資本による労働者階級への「逆襲」であり、「上からの階級闘争」なのである。

### 3-1-2. 新自由主義的アジェンダのもつ3つの前提

あらゆるものを商品化しようとするこのアジェンダは、以下の「3つの前提」を私たちが生きることの必要条件として承認するように強いている（Ferguson et al. 2018:ch1）。すなわち、

①市場は能率的で効果的であり、できる限り多くの分野で導入されるべきである

<sup>1</sup> それらは 1990 年以降もイラクやアフガニスタン、リビア、シリアなどに及んだ—この手法の具体的な様相は、ナオミ・クラインの著書やジョン・パーキンス（2007）『エコノミック・ヒットマン』を参照されたい。

## 未定稿：引用はお控えください

- ②個人は自己責任を負うべきで、自分の人生の経営者（≒起業家）であるべきだ
- ③公的ないしボランティアセクターのサービスは、民間の市場セクターからもたらされた経営の知識は技術を模範とすべきである

これらのアジェンダは、国家の主権削減が含意されている。つまり、資本の暴力（大企業の権力）を適切な形で社会的に規制しながら、国民に対する再分配を実施する福祉国家というアジェンダを放棄して、（新自由主義的イデオロギーに再編された）国家が資本と結託し、企業の利益を第一義的に保障する社会体制が出来上がってきたのである。英米だけでなく、日本を含むかなりの先進諸国がこうした「新自由主義化」を進めた結果、国家主権を上回る権力を「グローバル資本」（国際金融寡頭集団をはじめとする世界的に有名な企業）が取得してしまった。グローバル資本は、世界のあらゆるものを「商品化＝売買の対象＝利潤を獲得する」ためのアジェンダを持ち、このことが世界的な社会問題 global social problems（教育・医療・福祉・水道・ガス・電気・地方自治体のサービスに及ぶ。労働（雇用）条件を保護する社会的規制も骨抜きにされ、雇用流動化（解雇規制の緩和や非正規化）が一層進んだ。またこれを実行するために、政治はファシズム化して、市民の諸権利（市民権 citizenship）を抑圧してきた）を惹起している。「世界を商品化する」とは、社会の富を増やすことではなく、単なる国家の富を私企業が窃盗をしているに過ぎないのだが、なぜかこの流れが結果的に社会的に承認されてしまっている。端的に、この流れに乗れない貧困者は、犯罪人として認定され、社会的な制裁（刑務所行き）が下されるのである。

このアジェンダは、端的に言えば、[福祉] 国家による社会的サービスの民営化による、実質的な株式会社化を極限まで追求して、国家そのものを市場化する（株式会社化する）試みであるといえる（内田、鳩山、木村 2019）。我々は過去 25 年間の日本社会の動向を「ショック・ドクトリン」という観点から捉えており、その視点からみれば、小泉政権以降の社会経済政策は、ほとんどこのアジェンダに基づいたものだと確信している。

### 3-2. 公共資源の商品化としてのソーシャルワークの登場

#### 3-2-1. 社会保障／社会福祉やソーシャルワークの商品化

社会保障や社会福祉に目を転じても同じことがいえる。それらは、対象の絞り込み、給付額の引き下げやワークフェア化＝「自立支援」化、社会福祉供給主体の多元化と外部委託化、サービス受給方法やその評価を限りなく資本主義に適合的なエビデンス（「効果性」や「効率性」）に基づいて実施する方向である（Ferguson 2008=2012; Ferguson et al. 2018; 伊藤 2009; 2019）。すなわち、「公共資源の商品化としてのソーシャルワークの登場」を認識せざるを得ない状況に我々は直面しているのである。イアン・ファーガスンは、このアジェンダに基づく福祉国家とソーシャルワークの再編過程を「国家のソーシャルワークから国家が [enabler として市場化を] 主導するソーシャルワークへ」（Ferguson, et al. 2018:ch1）と指

## 未定稿：引用はお控えください

摘している<sup>2</sup>。

### 3-2-2. ソーシャルワークのケアマネジメント化と専門職

ソーシャルワークを商品化するための手段としてケアマネジメントが挙げられる。ケアマネジメントは、それが英米の福祉政策のアジェンダを実現するためのツールとして導入されたといっよい（伊藤 2006; 2007; 2008; 2009; 2014; 2019）。バンクス（Banks, S）（2012=2016: 209-210）はこの潮流には、費用対効果、金額に見合った価値、介入の成果の測定に対する国家の関心が反映されているという。それらは以下の5点である。

- （1）市場主義 marketization：サービスの供給にあたって効率性と競争力を増大させることと並行して、利用者を顧客と見なしてその選択肢を提供することに対する関心の増大
- （2）消費者主義 consumerism：サービス利用者の権利と質の保証に関連した、一貫した水準のサービスを提供することへの関心
- （3）財政資源管理統制主義 managerialism：従業員（専門職）の仕事への〔財政資源的な側面を含めた〕強力な統制・管理を追求すること
- （4）権威主義 authoritarianism：実践者の社会統制機能（social control function）を強調すること
- （5）脱専門職化 deprofessionalization：専門職を機関の方針を遂行する者として、またはセールス・ブローカーとして特徴付けることを伴う過程

これらの視点から見たとき、専門職がどのようなスタンスを持つかによって幾通りもの「実践モデル」が生じる。特に社会サービスの外部委託化(アウトソーシング)・市場化が進んでおり、それゆえ利用者を権利者ではなく消費者としてみたてるアプローチは、多くの専門職を「防衛的／技術的／官僚的」な実践者へ転化させる危険を有している（バンクス 2016: 199-1）。

ソーシャルワークのケアマネジメント化―「ソーシャルワークの現代化」(Ferguson 2008=2012:83-97) は、「実際のソーシャルワークを、(中立とされている) 根拠に基づいた実践を強調することで、本質的に技術的な業務として扱おうとする試みを伴ってきた」

---

<sup>2</sup> この意味で「福祉多元主義」とは、公共資源を資本へ切り売りするためのレトリックであり、日本で25年間継続している一連の「社会福祉基礎構造改革」路線とは、社会福祉サービスとソーシャルワークの市場化の徹底であるとみてよいといえるだろう。「受益者負担」名目による「買う」サービスとなった介護、保育も、あるいはケン・ローチが映描している『レディバード&レディバード』や『わたしは、ダニエルブレイク』などにみるソーシャルワークの姿は、そうしたアジェンダに翻弄されたものと理解することができそうである。要するに商品化されればそれは新たな福祉資本の蓄積の対象になるのである。

## 未定稿：引用はお控えください

(ibid.:73) が、この試みは端的に、「『金額に見合った価値』を主な優先順位とする社会的ケア市場を背景としたケアマネジメントモデルの押しつけから生じ」(ibid.: 231) という。このようなソーシャルワークのケアマネジメント化は、社会サービスの商品化と相まって以下のような問題を惹起している。

(1)「根拠に基づいた」客観的ニーズ（本当はそんなものはないのに）による画一的な規格化されたプランが提示される。そしてこのプランは、一定以上の所得がある階層にしか実質的な効果性がないものという問題がある（伊藤 2019:102）。しかし、この「根拠に基づく客観的ニーズ」は「厳密で高度に伝統的な自然科学の実証主義的な概念を過度に信頼して」（ファーガスン 2012:92）いるが、このアプローチが他のそれよりも信頼に足るという根拠が示されていないし、限られた問いにしか答えられないし、非統計的な認識〔エンパワメントやナラティブの否定〕を排除しているにも関わらず、なぜかこのマネジメントの考え方が崇高なものとして位置づけられているので、「根拠に基づく・・・」という「課題設定自体が、別の意味においてまた政治的」であることが無視されている（Ferguson 2008=2012:95）。

(2) 所得保障がないままのソーシャルワークのケアマネジメント化（ないしワークフェア化）（Ferguson 2008=2012:52）は、ニーズに基づいたサービス提供による「ケアの実践」ではなく、ソーシャルワークが限られたサービスを管理する役割に縮減化する強制力を持つ＝ソーシャルワーカーの門衛化＝ゲートキーパー化（伊藤 2006; 2007; 2008; 2009; 2016; 2019）。現代のソーシャルワーク専門職に課せられた任務は、「福祉よりも予算管理」になっている。このことは、ソーシャルワークの専門性 professionalism—裁量性と自律性が統制され、新自由主義的権力の支配を貫徹させる役割が押し付けられることを意味している（ソーシャルワークの「コントロール」機能の過度の強調）。

### 3-3. 新自由主義的グローバリゼーションに抵抗するソーシャルワーク

少なくとも英国をはじめとする「ラディカルな」ソーシャルワーク専門職や研究者は、こうしたソーシャルワークの本質や価値を毀損するアジェンダに対して憤慨し、これに対抗する理論や実践を育んできた。それは、新自由主義的グローバル化のアジェンダを批判し、オルタナティブを積極的に提示している、世界社会フォーラムによる「オルターグローバリゼーション」の考え方＝「もうひとつの世界は可能だ another world is possible」からインスパイアを受けながら、反資本主義的なエートスを新自由主義的な暴力からソーシャルワークを守る盾と位置づけながら、追求されている。具体的には、ブラジルの教育学者パウロ・フレイレ（(2018)『非抑圧者の教育学』亜紀書房）が小作労働者をエンパワメントするために行った「意識化／再概念化 reconceptualization」という教育方法（ペタゴギー）を先進国のソーシャルワーク運動に取り入れながら進められて来た（Ferguson et al.2018:ch5）。

## 未定稿：引用はお控えください

ファーガスンらがこうした問題意識を同僚とともに温め結束する形で 2004 年に設立したのが、ソーシャルワーク・アクション・ネットワーク (SWAN) である (伊藤 2007)。したがって、彼らは、ソーシャルワークは明確な政治的実践であるという強力な自覚を基盤にしている。ファーガスンらはいふ (Ferguson, et al. 2018: ch10)

「ソーシャルワーカーは政治的な真空のなかで働くわけではないので、ソーシャルワーカーが抑圧的で不正義な政治を是認するか、それに抵抗するなか、『社会的ケア』と『社会的統制』の間 [いわゆるケアとコントロールの弁証法] の歴史的な矛盾を解決する方策がある。つまり、ソーシャルワーカーがしばしば応える必要のあるきっぱりとした問いでいうならば、『あなたはどちらの側につくのですか?』、ということである」

SWAN は、「こんなことをするために私はソーシャルワークに携わったのではない! We didn't come into social work for this! / もう一つのソーシャルワークは可能だ another social work is possible」という問題認識を持ちながら、ソーシャルワークの官僚化、断片化、抑圧装置への否定的見解 → 「抵抗」する実践を世界各地のソーシャルワーカーに呼びかけている。なぜなら、ソーシャルワーカーは単に社会サービスを提供している事業所や諸機関に雇用されているサービス提供者ではなく、IFSW のソーシャルワークの国際定義が示しているように、「人権と社会正義」という (政治的、社会的、倫理的な) 価値を実現する committed action ための社会的実践者であるからである (Banks 2012=2016:61-64)。つまるところ、そうした社会サービスの市場化を通じて (グローバル資本と結託し) 新自由主義化した国家が狙ったのは、究極的には、「ソーシャルワーク教育と実践から『ソーシャルワークの価値をめぐる話題』を削除もしくは格下げしよう」と企てることであり、またソーシャルワーカーを倫理中立的な職務を遂行する社会的技術者もしくは社会的エンジニアとして再構築しよう」と企てることであった (ibid.: 228) といえよう。

しかし、こうした政治的な文脈に対しては無自覚な実践や研究が、英国と比して日本では多い (ex 上野谷 2020)。

### 3-4. SWAN-I の理念と実践：グローバルな社会問題にどうかかわるのか？

#### 3-4-1. SWAN-I の設立理念

2020 年、ソーシャルアクションネットワーク・インターナショナル (SWAN-I) が設立されるに至った。このネットワークでは、「ソーシャルワーク・アクション・ネットワーク・インターナショナル (SWAN-I) 設立宣言 2020 年 5 月」を発表した。

この SWAN-I は、世界各地で活動するソーシャルワーカーの組織をつなぐものであり、「共通の原則、特定の運動、そして各国でのラディカルなソーシャルワークの伝統を発展させ、強化するためにお互いを支援することで団結する」ものとされている。そして、このネットワークに加盟する団体が共通認識として持っているのは、まず「[資本の]利益よりも人

## 未定稿：引用はお控えください

間と人間のニーズ(human needs)を優先することに尽力し、責任を持つ」そして「私たちは、サービス提供の民営[私事]化された形態に反対する。なぜなら、それらは不平等と抑圧を強化するからであり、また公共サービスは、決して民間企業の利潤を生産する要求と要請によって形作られるべきではないからである。これは、私たちが国家による[社会]サービス提供に関して無批判であることを意味しない。[むしろ]私たちは、現在の国家が資本および国家エリートの利益/権益を保護することに主に関係していることを認識している。というものである」とされているように、新自由主義的グローバリズムの中で進展してきた福祉民営化や、貧困・格差問題の深刻化、多文化共生問題などを視野に入れているものである (SWAN-I 2020)。

例えば、貧困問題について取り上げるならば、日本におけるワーキングプア問題は 90 年代の労働法制の度重なる改正により従来の終身雇用制度が非正規化されたことに関連している。しかしなぜ、非正規化が進んだのかを考えれば、それは企業における人件費負担の軽減であったことは明確である。日本の多くの製造業は、人件費などが日本と比較すると安価であった海外移転した。そして、日本では海外での人件費を基準としてできるだけ安価なものになるよう、法改正がされた。このように、ワーキングプア問題は日本と海外諸国と密接に関連しており、その背景は新自由主義的グローバリズムが世界中に浸透していることと無関係ではない。

### 3-4-2. SWAN および類似組織の実践例

3-4-1 で述べたとおり、SWAN-I は各国のソーシャルワーカー組織のネットワークであるが、設立理念に共鳴した組織が SWAN-I 設立以前から各地でそれぞれの社会で福祉課題、専門職の役割について議論し、活動を展開してきた。ここではそのいくつかを取り上げてみる。

まず、SWAN-I の最も基盤となる活動組織は、イギリスを中心に展開されてきた、ソーシャルワーク・アクション・ネットワーク (SWAN) である。SWAN は 2006 年にリバプール大学で開催された 300 人強のカンファレンスが契機になっている。そして、2004 年に「ソーシャルワーク・マニフェスト」を発表し、新自由主義の進展の下でマネジメント主義（「サービスの断片化、財政的な制約や資源の不足、増大する官僚主義的な作業負荷、圧倒的なケアマネジメント・アプローチの横溢とそれに付随したパフォーマンスの指標、プライベート・セクターを使用することなど (伊藤 2007)」) が、「ワーカー＝クライアント関係は、ケア (care) というよりもコントロールと監督 (supervision) によってますます特徴づけられるようになった」とソーシャルワークの変容を指摘した。そして、「倫理的な使命をもった職業サーヴィス (Ethical Careers Service)」として、反資本主義、グローバルな正義に一歩いたソーシャルワークを求める運動を展開してきている (伊藤 2007)。

このようなイギリスでの動向に影響を受けて、香港を中心に「進歩的ソーシャルワークネットワーク (Progressive social work network)」が形成され、東アジア諸国 (香港、マカ

## 未定稿：引用はお控えください

オ、台湾、シンガポール、日本）のソーシャルワーカー・研究者・学生・利用者が集う集会を2015年（香港）、2017年（台湾）、2019年（日本）で開催し、問題意識の共有しながら運動を展開してきた。また、2018年には「アジア進歩的ソーシャルワーク宣言2018」を共同執筆した。ここでは香港、台湾、マカオ、中国、日本の各国の新自由主義的グローバリズムの問題状況を指摘した<sup>3</sup>。

アメリカでは、ボストン解放健康グループ（Boston Liberation Health Group）は、キャンペーン活動に加えて、実践モデルを開発し様々なソーシャルワーク環境での実践を文書化している。その指針を Dawn Belken Martinez は次のように要約している。

- ・ ホリスティックな視点： 個々人（individuals）を、個人（personal）の構造的、イデオロギー的、制度的決定要因の完全なマトリックスの中に置くこと。
- ・ 批判的な視点：新自由主義を受け入れず、ソーシャルワークはその社会的アジェンダに従属すべきだという考えを受け入れないこと。
- ・ エンパワメントな視点：クライアントとソーシャルワーカーを、現在の状況は避けられないものであり、変化する力を超えているという混乱した信念から解放し、社会変革のために活動する個人と運動の積極的な同盟者になることへの支援を求めること。
- ・ 希望に満ちた視点：の記憶を救い、「人類全体の変化を生み出す能力」を大切にすること（Reisch 2013:68; Martinez & Fleck-Henderson 2014 も参照）

またこの他にも、北欧やスペインなどでも、問題状況を共有しながら各国の状況に応じた活動を展開しているところである。

### 3-4-3. コロナ禍下での SWAN-I の実践

2020年1月に中国で新型コロナウイルス感染症が確認された後、瞬く間に感染が世界中に広がった。各国で、医療体制の問題や休業を余儀なくされた人々の生活困窮が指摘された。こうした状況の中、「この危機的状況に、ソーシャルワーカーはどう応答すれば良いのか」という問い掛けの下、SWANと世界ソーシャルワーカー連盟（IFSW）の呼びかけにより、ウェビナーが開催され、世界各国のソーシャルワーカーや研究者が参加した。ウェビナーは、4月2日、4月16日、4月30日に開催された。

第一回目の4月2日には、チリ、アメリカ、ギリシャ、ポルトガル、イギリス、南アフリカ、パレスチナから各国のコロナ禍の問題状況と、ソーシャルワーカーの活動実態について報告された。

第二回目の4月16日には、アイルランド、アメリカ、韓国、キプロス、スコットラン

---

<sup>3</sup> 東アジアでの運動の展開の詳細については、日本社会福祉学会 第66回秋季大会報告（中野加奈子・伊藤文人（2018）「香港・台湾における「Progressive Social Work Network」の動向。－「亜州社会工働論壇（Progressive Social Work Forum）」への参加を通して－」）を参照のこと

## 未定稿：引用はお控えください

ド、スペインから、第三回目の4月30日には、SWANの代表メンバー及びウガンダ、ブラジルからの報告、加えて国際ソーシャルワーカー連盟の委員からコメントが出された（中野2020）。

三回のウェビナーを通じて指摘されたのは、コロナ禍で直面している諸問題は1990年代から続く新自由主義の下で社会福祉サービスの民営化やマネージメント主義が進行したと切り離せない、という点であった。確かに、日本でも介護保険財源の不足から要介護度の認定の見直し、サービス報酬の改定が繰り返されており、余裕のない人員配置の中で感染予防対策を強いられる特別養護老人ホームの問題や、ホームヘルパーの不足が指摘されていた。こうした日本の実態と類似する問題が世界各国でも生じていることは、すなわちソーシャルワークが直面する危機が世界規模の問題であることの証左であろう。

さらに、アメリカで5月25日に起きた「ジョージ・フロイド事件」を景気に、黒人への人種差別問題が焦点化され、「ブラック・ライブス・マター（Black Lives Matter:BLM）」運動が展開された。この人種差別問題についても8月6日にウェビナーが開催され、積極的な議論が展開された。

### 4. 考察:日本のソーシャルワーク理論と実践への示唆

第三回のウェビナーでSWANの代表メンバーであるイアン・ファーガソンが「難民問題や貧困問題が生み出される背景を考えれば『ソーシャルワーカーは政治的に中立である』という意見はあり得ない」と指摘した。

実際、社会福祉関連法や社会保障・社会福祉予算が国会で議論されることや、経済・労働問題や国際問題も含め、社会福祉に関連する諸問題は政治とは切り離せないことから、ソーシャルワークが政治的視点を持つことは重要である。

また、新自由主義的グローバリズムの進展により、人々のいのちが経済貢献するか否かで価値判断され「生きるに値しないいのち」と判断された人々が死に直面する事件（相模原事件・京都安楽死事件）が発生している。また、経済的に貢献するよう「自立」を強制されるような制度設計、ソーシャルワークの価値についての問い直しもある（桜井・広瀬 2020）。

こうした中で、日本のソーシャルワークは政治・社会・世界と切り離されてしまっていることに気づかされる。特にコロナ禍で私たちは暮らしが世界とつながっていること、社会的なつながりの重要性を学んだ。SWAN-Iと関連しながら、ソーシャルワークの希望を導く議論と運動を日本でも活発化させていくことが求められている。

### ■ 参考・引用文献

Paulo Freire (1970) 'Pedagogia do Oprimido' Bloomsbury Publishing Inc. (三砂ちづる訳 (2018)『被抑圧者の教育学』)

伊藤文人 (2006)「包摂の実践者か、排除の尖兵か?--イギリスにおける脱専門職化するソーシャルワーク」日本福祉大学『現代と文化』第113号

## 未定稿：引用はお控えください

- 伊藤文人 (2007) 「ソーシャルワーク・マニフェスト—イギリスにおけるラディカル・ソーシャルワーク実践の一系譜」日本福祉大学社会福祉学部『日本福祉大学社会福祉論集』第116号
- 伊藤文人 (2008) 「ソーシャルワークと社会正義—「ソーシャルワーク・マニフェスト」に向けて」総合社会福祉研究所『総合社会福祉研究』第32号
- 伊藤文人 (2009) 「ソーシャルワークと近代社会—ジグムント・バウマンの社会理論をてがかりにして」日本福祉大学『現代と文化』第120号
- Rebecca Solnit (2009) 'A Paradise Built in Hell: The Extraordinary Communities That Arise in Disaster' (高月園子訳 (2010) 『災害ユートピア なぜそのとき特別な共同体が立ち上がるのか』亜紀書房)
- 伊藤文人 (2016) 「ソーシャルワークのグローバルな動向」日本の科学者『日本の科学者』1月号
- 伊藤文人 (2019) 「グローバリゼーション／ラディカルソーシャルワーク／SWAN」金子光一・小館尚文編『新世界の社会福祉1 イギリス・アイルランド』旬報社
- Iain Fergason (2008) 'Reclaiming Social work', SAGE (石倉康次・市井吉興監訳 (2012) 『ソーシャルワークの復権』クリエイツかもがわ)
- David Harvey (2005) 'A Brief History of Neoliberalism', Oxford Press (渡辺治監修、森田成也・木下ちがや・大屋定晴・中村好孝訳『新自由主義—その歴史的展開と現在』作品社)
- Naomi Klein (2007) 'The Shock Doctrine: the Rise of Disaster Capitalism', Metropolitan Books (幾島幸子・村上由見子訳 (2011) 『ショック・ドクトリン—惨事便乗型資本主義の正体を暴く (上下)』岩波書店)
- Sarah Banks (2012) 'Ethics and Values in Social Work 4<sup>th</sup> edition' Palgrave Macmillan (石倉康次・児島亜紀子・伊藤文人監訳 (2016) 『ソーシャルワークの倫理と価値』法律文化社)
- Iain Ferguson, Vasilios Ioakimidis, Michael Lavalette (2018) 'Global Social Work in a Political Context: Radical Perspectives' Policy Press
- 内田 樹・鳩山 友紀夫・木村 朗 (2019) 『株式会社化する日本』詩想社
- 広瀬義徳・桜井啓太編 (2020) 『自立へ追い立てられる社会』インパクト出版会
- 上野谷加代子 (2020) 『共生社会創造におけるソーシャルワークの役割: 地域福祉実践の挑戦』ミネルヴァ書房
- 中野加奈子 (2020) 「コロナ禍でつながった世界のソーシャルワーカーたち」総合社会福祉研究所『福祉のひろば』2020年7月号
- SWAN-I (2020) 'SOCIAL WORK ACTION NETWORK INTERNATIONAL (SWAN-I) FOUNDING STATEMENT' <https://socialworkfuture.org/swani/>

- 本報告は、2020年度-2021年度 JSPS 科研費の助成 (課題番号 JP19K13959) の一部として行なっている。